令和元年度 三田市人権を考える会
ラブピース4コマまんがコンテスト
特選作品
『みんな友達 !!』
三田祥雲館高等学校３年
（前年度）
吉岡 くるみ さん

お知らせ

市内の認知症カフェ

市内の認知症カフェをご紹介します。（予約不要、参加費要）

	花・花カフェ	お日さまカフェ	にこにこカフェ
場所	特別養護老人ホーム ゼフィール三田（富士が丘）	つつじが丘小学校内交流広場	ウッディタウン市民センター
開催日	毎月 第４日曜日 13 時 30 分～ 15 時 30 分	毎月 第２土曜日 10 時～ 12 時	毎月 第３日曜日 13 時 30 分～ 15 時 30 分
問い合わせ先	フラワー地域包括支援センター TEL：553-3600　FAX：553-3601	藍高齢者支援センター TEL：568-3900　FAX：568-0810	ウッディ地域包括支援センター TEL：553-1077　FAX：553-7023
備考	現在、新型コロナウイルス感染症予防のため休止中。（再開日は未定）	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を見合わせる場合があります。参加を希望される方は、上記の連絡先に開催の確認をお取りください。	

編集後記

お話を聞き、若年性認知症を発症した時に、これまでとは違う自分に最初に気づくのは本人で、そのことに強い不安や悲しみを感じていることも知りました。誰にでも起こりうるこの病気を乗り越えるためには、本人の努力だけでなく、周囲の人の温かい支援の輪が必要です。私たちは人と接する時に、相手を驚かしたり、急かしたり、自尊心を傷つけないよう心がけています。認知症の人と接する時には、なおさらこのことを大切にしなければいけないと感じました。

ひょうご若年性認知症支援センター

（若年性認知症の相談窓口）

TEL：078-242-0601　FAX：078-242-7947

月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）　9時～ 12 時、13 時～ 16 時

ふれあいと創造の里陶芸館

四ツ辻 1129-1　TEL：568-4340 (FAX 兼用)

「さんだ認知症あんしんガイドブック」

三田市では認知症に関するガイドブックを発行しています。希望の方はお近くの地域包括支援センター・高齢者支援センター窓口でお受け取りください。

講座のご案内　※参加費無料

発達障害の特性を持っていても自分らしく生きるコツ

事前申し込みが必要です

■講演者　渡辺 英雄 さん
■申し込み先　人権推進課（下記欄外参照）

〔第１講座〕
■テーマ　子どもの自立のために必要なこと
■日　時　９月 26 日（土）13 時～ 15 時
■場　所　総合福祉保健センター 講座室
■定　員　先着 30 名
■一時保育　先着８名（１歳以上）
■申し込み締め切り《講座参加》９月 23 日（水）
《一時保育》９月 16 日（水）

〔第２講座〕
■テーマ　大人が上手くやっていくための考え方
■日　時　10 月 18 日（日）13 時～ 15 時
■場　所　総合福祉保健センター 第 1･2 会議室
■定　員　先着 20 名
■一時保育　先着８名（１歳以上）
■申し込み締め切り《講座参加》10 月 15 日（木）
《一時保育》10 月 ２日（金）

※新型コロナウイルス感染症の状況により、急遽中止することがあります。
※マスクの着用をお願いします。マスク着用が難しい場合は、申込時にご相談ください。

わたし No.172 出会う 気づく つながる

ありのままに感じる

弥生小学校教職員　野垣 佳代 さん

先生！Tくんが走ってる！

私は、30年近く小学校教員として、たくさんの子どもたちと過ごす中で、自分の考えが大きく変わった出来事がありました。それは、以前勤めていた小学校で３年生の学級担任をしていた時のことです。

教室にいた私の所へ、一人の男の子が息を切らせて駆け込んできました。「先生！Tくんが走ってる！」

うれしさと驚きのまざったその子の表情と言葉に、私は一瞬何のことか分からず、言葉を返すことができませんでした。

男の子に促され、ワークスペースに出てみると、そこには歩行器を使って「走る」Tくんの姿がありました。力強くつま先で床面を蹴り、前へ進んでいきました。その先にはいつも一緒に勉強している特別支援学級の先生がいて、Tくんは体を動かすのが楽しくて仕方がないという様子でした。教室にいた子どもたちも出てきて、「走る」Tくんを囲みます。友だちの声援を受けて、Tくんは一層力を入れて進んでいきました。今まで、Tくんがほとんどの時間を車いすで過ごし、歩行器で「歩く」練習をしている姿しか知らなかった私には、本当に考えさせられた出来事でした。

私の気づき

私は、自分の固定観念で、「車いすで生活している＝走れない、歩けない」と考えていたことに気づきました。「走る」ということは、何の助けもなく早く走ることだと考え、「車いす」を使用しているTくんが「走る」というイメージを持っていませんでした。しかし、まわりの子どもたちは一緒に過ごす中で、いろんなTくんの姿を見ていました。そしてこの日の歩行練習で、生き生きと活動しているTくんの姿を「走っている」と自分の目でとらえて、私に教えてくれたのです。共に過ごしているからこそこのようなとらえ方ができるのだと感じた出来事でした。その後もTくんは、まわりの子どもたちと一緒にいろいろなことに挑戦し、大きく成長して小学校を卒業しました。

助けあえる社会

現在、私は、弥生小学校で特別支援学級の担任をしています。毎日子どもたちの成長が楽しみで仕方がありません。「以前はできなかったことが、今日やってみるとできた！」と日々発見があるからです。特別支援学級に対して、「勉強ができないから行くのでは？」というような声を耳にすることがあります。しかし、そうではありません。自分に合ったやり方で、自分に必要な力をつけていく、そのための学習の場であると考えています。

特別支援学級での学習を終えて、子どもたちが自分の学年の教室に戻ってくると、「今日どんな勉強してきたん？」「すごい。天才やなあ」と子どもたちのにぎやかな会話が絶えません。お互いに、ありのままの姿を受け入れ、ともに伸びていく子どもたちの姿がここにあります。

「してあげる」という言葉は、私は好きではありません。「誰もが誰かの力になり、助けあえる」そのことが当たり前の社会になるよう願っています。「あなたがいてくれてありがとう」この気持ちをいつも忘れず過ごしていきたいです。

人権擁護委員による定例人権相談 ･･･ ９月 24 日（木）13 時～ 16 時
問い合わせ・相談希望者は、人権推進課へ (559-5148 FAX 562-1294)